

はくさん

木の命

第98号 H28年夏号

伊豆市 法住寺 発行

五、六年前、寿量の杜の百年杉が立枯れたので伐ってもらった。百年を越すりっぱな大木で、今もドンと杜に横たわっている。

先日、山の草刈りをして汗を流した後、その倒木に腰を下ろした。杜の木漏れ日は明るく力強さを増し真夏が近い、涼しい風が吹く。何ともいえず快い。

*

すると倒木が語りかけてきたのだ。「早く、使ってください」、「私は百年の余この杜で育つてきました。この私を役立ててください」。

私は「先人が丹精込めて植樹し、こんな立派な大木に育ってくれたのに、本当に申し訳ない。ただ、あなたを運び出すことができないんだよ。本当にごめんなさい」と謝った。
「この場所には重機は入らず人手で出すには大変なこと、運び出しても取りに来てもらうには更に費用がかかる」、そんな経済のこととは勿論、口にはしなかった。

*

木の命ってどこまでだろう

*

木の命ってどこまでだろうと想う。立枯れた時？、伐り倒された時？、今はまだ立派な大木でも何十年後には朽ちるその時？、たとえ朽ちてもその栄養は地を潤し新しい樹木の命が芽吹く…時？。

本堂の位牌堂には樹齢六百年のケヤキの丸柱がある。旧本堂の大黒柱だったケヤキ。これだけ素直な柱目のしかも赤みのケヤキはまずない。そして今も当山の本堂で生きている。

*

寿量の杜の倒木と話をした数日後、私たちと共に歩んできた檀家さんが急に倒れお亡くなりになった。既に四十九

日忌も終わったが、今でもその方の笑顔、草取り作業のお姿、楽しく敲いた万灯太鼓、何回もご一緒した団参でのお姿等々、私の中に生きている。また大地を力強く踏ん張ってきた生きざまは、子供たちに孫たちに伝わり生き続けていくことを想う。

*

人の命ってどこまでだろう

*

人の命ってどこまでだろう。一般にはドクターが臨終を告げた時にしても、様々なかたちで様々なものが亡くならないでいる。

人の命って、肉体的な命だけではないと想う。様々な命が心に残り、それを魂と名づけることもあり生き続けている。また様々な存在する命を想えることは豊かであり、幸せなことと想う。

「寿量の祈り」 感謝と敬意

大自然

ありがとうございます

南無妙法蓮華經

社会の皆さん

ありがとうございます

南無妙法蓮華經

ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます

南無妙法蓮華經

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

いつの日からか「毎日を丁寧に暮らしたい」と思うようになりました。今までは、あれもこれも、早く、早くと気持ちいがせいで自分を追いつけていたような気がします。晴れた日、座布団カバーを何十枚か洗って干して元通り



カバーして納め積み上げた時の清々しさ。まさにお陽さまに感謝です。

*

暑い中での草取り、掃除。青田を渡る風がさつと汗を乾かしてくれる時の気持ち良さが

あり、山の風って有り難いと思います。

昨日、咲いていなかった花を見つけた時の今朝の喜び。知らず知らずのうちに、そのエネルギーに励まされる自分があります。またとれたての野菜をかみしめて戴く時のしみじみと身体に染みわたる美味しさ。作り手の時間と手間をかけた作物への「思い」が、そこにあります。

戴いて不思議に元気になれる自分がいます。そして会う人ごとに笑顔をかかわせることの幸せ。微笑まれた相手も自分も心豊かになれるようです。「丁寧」とは敢えて特別な事をするのではなく、気持ちを変えて日々の暮らしをみつめることかもしれません。

*

自分の足元、周りには「恵み」がいっぱい

あり、そのひとつひとつを思う時「感謝」の気持ちがあふれててきます。さあ、暑さ本番の夏。「丁寧に暮らす」を心掛けながら頑張ってみたいと思います。

護持会新役員さん

今期(第22期・H28.4～H31.3)のお寺の役員さん、護持会役員さんが決まりました。

干与人

梅木・妙見寺 金子随容上人
三島・受法寺 瓜島義典上人



(敬称略)

- ・前列右より
- 小塚健治
- 伊東修会長
- 住職
- 副住職
- ・後列右より
- 三田信子
- 山下壮一
- 佐藤諭
- 室野千肥路
- 伊東徹
- 飯田幸雄
- 小塚秀夫

総代

伊東 修様、小塚健治様、森野道雄様

世話人

(元村)伊東徹様、三田信子様、伊東幸二様
(小川)室野千肥路様、

(清水)小塚健治様、小塚秀夫様、山下壮一様
(西) 佐藤諭様、飯田幸雄様、

護持会長選出

4月24日、新役員会を開催、護持会長に引き続き伊東修総代、副会長に小塚健治総代を選出して頂きました。皆さま、宜しくお願い致します。

墓地清掃について

護持会新役員会で墓地清掃について、急斜面は危険を伴うので、業者などに頼むことも含めて検討してみたらどうかという意見がありました。

確かに急斜面の草刈り機での作業は危険ですから、足元に十分気をつけて無理をしないでください。刈れない場所ほどの範囲か、また刈らずそのまましておくか、業者に頼むにしてもどの範囲か、費用はどの位かかるか等、様子を見ていきたいと思えます。

トピックス

寺庭婦人会会長

日蓮宗では、お寺の奥さんを寺庭婦人といいますが、静岡県東部宗務所管内(伊豆半島)の寺庭婦人会の会長を当山の昌子寺庭が二年間お勤めすることになりました。

4月には当山で総会が開かれ、六月には東京池上・大坊本行寺様へ団参し研修、会員の懇親を深めています。

また9月には、本山真間山弘法寺、前寺庭婦人 石野澄子様を講師にお願いし当山を会場にして研修会が開かれます。



気持ち良く歌えます。

花まつり

4月の十二日講に合わせて花まつりを行いました。今回は童謡を歌いました。幾つになっても童謡は

枝垂れ

せん定

本堂前の枝垂れ桜が勢いなくなってきました。3月の境内作業で枯れた枝を伐ってもらいました。その後、植木屋さんが入った折に更に伐ってもらいました。



日雄上人十七回忌

「死んでも死なない」

六月に母の三回忌、先代十七回忌を一年前寄せてお勤め致しました。

先代の晩年は「死んでも死なない」、何時の行事でも法事でも、決まってこの話。私は「またかあ」と少々うんざりだったのです。

先日、檀家さんと話していて「前の御前さんの話は何時も『死んでも死なない』だったじゃあ」。キチンと檀家さんの中に残っているのでした。別の方「うん、覚えてるよ。変な事言うなあと思って」。何れにしても先代が皆さんにお話ししたのは、三、四十年前の

こと、それが残っている。まさに「死んでも死なない」

法華経は久遠の命、永遠の命を説きますが、それを「死んでも死なない」と云ったのです。肉体は死んでも何かが死なない、それを何と言って良いか、魂とか霊魂でしょうか。

先代は葦山中学(旧制)を卒業後、横浜で小学校に勤めながら夜間の立正大学に通い卒業しました。その時、横浜の借家から弟三人が大学へ通学し、自分の子供たちが三人になっていました。終戦の前に横浜が空襲で危なくなり三島の実家・受法寺へ引き上げてきた苦勞人でした。私は三島で戦後の生まれ、その後昭和二十五年に当山に入山のご縁を頂いたのです。そうした苦勞をよく聞かされていましたから、私も自然に少しくらいのことは踏ん張ることができたのです。死なない命ということの一つは、そういったことのように思います。

お知らせ

お盆のお施餓鬼

8月3日(水)午後3時

・秋季彼岸会

9月22日(木)午後2時



☆境内整備作業

7月 小川、 9月 清水②

☆宗務所主催 身延山輪番奉仕団参

9月11日(日)

会費 1万円 (小中高生 5千円)

申込み締切り 8月21日

☆伊豆連合大題目

9月25日(日)午後1時 浮橋 本道寺

『青年僧のお話』 会費五百円

皆さんで参加しましょう。

車の手配は世話人さんをお願いします。



洋明さんのおはなし

「いつやるの、今でしょう」ある予備校講師の有名なフレーズです。皆さんもテレビなどで一度は耳にしたことがあると思います。その反対の言葉「そのうち・とりあえず」。

御志心納金「三月〜六月」

住職 瓜島信行 書院サッシ工事砌

元村 三田千春殿 尊父葬儀砌

元村 足立悟殿 尊母葬儀砌

八幡 山本義富殿 愛妻葬儀砌

大仁 渡邊哲也殿 愛妻預骨砌

私自身はこの魔性の言葉に、何度甘えてきた事か。たとえ本当は今出来る事も、「面倒」などの懈怠心から、出来ない理由、後回しの口実を見つけて「そのうち・とりあえず」。

実際、「そのうち・とりあえず」と言ったことはやらないことがほとんどです。

そんな時、思い出すのは住職に言われた「世の中には物理的に出来る事、出来ない事はあるが、面倒だから出来ないと思うなら、それはしたほうがよい。今出来る事は今しかない」との一言。きつと私の「そのうち・とりあえず」を見兼ねた仏さまから変化の一言だったと今は思います。

*

先日、「なかなか思うようにいかない。周りが、環境が良くない。まったく、まったく」との相談です。確かに、思うようにいかないことを周囲や、人のせいになれば自分は楽です。ただし、そのままの心持ちでいると、次の「まったく」、その次の「まったく」がその方には来るでしょう。言っても変わらないどころか、言うとお悪循環になる事もしばしば。

足を動かし、勝手に一步を踏み出させてくれるのではありません。「きつかけ」はもらうことがあっても、変化の一步を踏み出すのは最終的に「誰がするの、あなたでしよう」なんです。

「くすればいい、くだったらいい」とは誰でも思いますが、思うことは出来ます。そう思った時、一步踏み出すのは、やはり自分なのです。

「心変われば、態度が変わる。態度が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、運命が変わる。運命が変われば、人生が変わる。」

*

法華経には「それぞれ与えられた環境のなかで、いかに幸せに生きることが出来るか」という教えがあります。ここでの幸せに生きるとは、欲が満たされ満足する幸せとは違い、「嬉しい、ありがとうと感じる、安らかに穏やかに生きる」という魂の幸せです。

*

「まったく」が次の「まったく」を呼ぶように、「ありがとう」は次の「ありがとう」を呼ぶでしょう。

皆さんに「ありがとう」が多いことを願っております。